

対象年度		令和 6年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート										
事務事業名		有害鳥獣被害対策事業						予算事業名		農業振興事業費				
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令					
				06	01	03	11	経常経費						
総合計画体系								事業の区分		一般事業				
								担当課係等		農政課 農業係				
事業期間		新規 (令和 6年度～ 年度)												
【めざす姿（意図・どのような状態になるのか）】							【事業開始のきっかけや他市の状況など】							
鳥獣被害がない状態							猟友会が行うカラスの駆除において、近隣市町村では銃弾の補助を行っている。また、有害鳥獣被害が増加傾向にあり、捕獲隊を設置し、回収・殺処分については外部委託する自治体が増えている。							
【手段（事業内容・どのようなことを行うのか）】							【対象（だれに対して・何に対して行うのか）】							
・ 猟友会が行う、有害鳥獣捕獲のために必要な銃弾の購入に対して補助する。 ・ カラスによる有害鳥獣被害が発生した場合に、適宜適切な捕獲を実施するため、有害鳥獣捕獲隊を設置し、捕獲隊が有害鳥獣を捕獲した際には、報奨金を支給する。 ・ 捕獲された有害鳥獣（アライグマ）の回収・殺処分を、専門の業者等に委託する。							猟友会、捕獲隊、委託業者							
							【事業をとりまく環境の変化】							
							鳥獣被害が増加傾向にある。 アライグマの捕獲数が、R3は26頭、R4は40頭に増加し、R5は6月上旬で23頭と増加傾向にある。							
【令和 6年度 事業内容】				【令和 7年度 事業内容】				【令和 8年度 事業内容】						
カラスの駆除に必要な銃弾の購入に対して補助を行う。 捕獲隊を設置する。 捕獲された有害鳥獣の回収・処分について、専門業者等と委託契約を締結（単年度）				カラスの駆除に必要な銃弾の購入に対して補助を行う。 捕獲隊を設置する。 捕獲された有害鳥獣の回収・処分について、専門業者等と委託契約を締結（単年度）				カラスの駆除に必要な銃弾の購入に対して補助を行う。 捕獲隊を設置する。 捕獲された有害鳥獣の回収・処分について、専門業者等と委託契約を締結（単年度）						
■事業費														
				R04年度		R05年度								
財 源 内 訳	国	庫	支	出	金	0	0							
	県		支	出	金	0	0							
	地		方		債	0	0							
	そ		の		他	0	0							
	一		般	財	源	0	0							
歳入計（千円）				0		0								
歳 出 内 訳	節（番号＋名称）			金額（千円）		金額（千円）								
歳出計（千円）（A）				0		0								
伸び率（％）														
備 考	総合計画 ページ 予算書 ページ													

新規事業事前評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		R04年度	R05年度	R06年度
活動 指標	捕獲隊設置数	隊	目標	0.00	0.00	1.00
			実績	0.00	0.00	0.00
	アライグマの殺処分数	頭	目標	0.00	0.00	120.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	カラス捕獲数	羽	目標	0.00	0.00	100.00
			実績	0.00	0.00	0.00
	アライグマによる農作物被害の報告件数	件	目標	0.00	0.00	10.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	鳥獣被害が増加傾向にある中、強固な捕獲組織が必要であり、回収・処分の効率化は必要である。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	捕獲隊の隊員は猟友会の支部長が隊長となり、支部長が推薦する。
	手段の妥当性	B どちらとも言えない	捕獲のための組織として、他に実施隊もある。
効率性	コストの効率性・人員効率	A 改善の余地はない	捕獲についてはカラスに特化し、捕獲数に応じて報奨金を支給する。処分は、専門業者等が行うため職員より効率的に行える。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	市内全域が対象のため偏りはない。
有効性	成果向上の余地		
進捗度	事業の進捗		
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
銃弾購入数は検討の余地があるため、駆除数の状況を見て進めていく。 捕獲隊の活動状況により、捕獲について委託する子とも検討していく。 有害鳥獣の適正な回収・処分ができる委託業者へ、単年度契約により委託する。			

■方向性

1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☒ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
方向性の具体的内容 銃弾の値上がりも考慮し、予算を確保していく。 捕獲については、まず捕獲隊を設置し、活動状況に応じてカラス以外の捕獲も検討していく。 適切な回収・処分ができる専門業者へ、委託を進めていく。
2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入）